



ASICS通信
2008.4.1～2008.9.30

55th Term

証券コード：7936



代表取締役社長 尾 山 基

アシックスの軸足 ―尾山社長インタビュー―	1
連結営業概況	5
四半期連結財務諸表	7
SportiVITÀ	9
会社の概況	10
株式の状況	11

第2四半期累計期間の連結業績は、海外事業はヨーロッパでスポーツスタイルシューズが低調であったものの、その他の地域においては引き続き堅調に推移したこと、ならびに国内事業の活性化策が奏功したことによって、厳しい環境のなかにおいても売上高は増収となり、営業利益では増益を確保することができました。米国の金融不安に端を発する世界的な景気減速懸念が強まるなど、今後の経営環境は予断を許しません。アシックスグループはものづくりに懸ける真摯な情熱と攻めの経営によって企業価値の向上を図るとともに、中期経営計画「アシックス・チャレンジ・プラン (ACP)」の達成に全力を尽くしてまいります。

当第2四半期累計期間の業績について尾山社長の評価を聞かせてください。

ACPの3年目に当たる第55期の第2四半期累計期間（2008年4月1日から9月30日まで）の連結業績は、売上高は1,242億円と引き続き増収となりました。利益については、営業利益は127億円と増益を確保することができましたが、株価の下落の影響などもあり四半期純利益は75億円と減益となりました。

国内における健康志向の高まりを背景にアスレチック関連が好調に推移したこと、ならびにアメリカなどの市場で高い成長を実現したこと、また、2007年9月にアシックス商事株式会社とその子会社を連結子会社化したことが主な要因です。

しかし、足下の好業績に安住するつもりはありません。世界の景気減速懸念は強まっており、消費トレンドも日々変化しています。こうした変化に対応して、商品や販売方法の革新を行っていかねばならないと気を引き締めています。

海外市場の動向とアシックスグループの取り組みについて教えてください。

アメリカでは、ランニング分野を深耕するとともに、現地のライフスタイルにあった商品の拡販に取り組んできた結果、現地通貨ベースでの売上伸び率は前期に続き2桁増を達成しました。2007年から連結対象となったブラジルも堅調に推移しており、さらなる成長を目指します。

一方、ヨーロッパでは、競争の激化と景気の減速によって、これまでのような高い成長を続けることが難しくなっています。成長が期待できる東欧やロシア市場などにも注力し、ヨーロッパ全体での事業の発展を目指します。また、2008年10月には、ヨーロッパにおける当社の旗艦店と位置づける「アシックスストアロンドン」がオープンしました。ファッションの中心地であり、毎年4万人以上の参加数を誇るロンドンマラソンや次期オリンピック開催地でもあるロンドンに直営店をオープンすることで、「アシックス」のブランドイメージのさらなる向上につなげていきたいと考えています。

アジア・パシフィックは、今後最も強化すべき地域と位置づけ、経営資源を積極的に投入しています。中国は対前年比売上は増加していますが、経営の質を上げることが課題で、マーケティング、商品構成、生産、店頭でのディスプレイなど多方面において再構築



「DS LIGHT GENIO
(ディーエス ライト ジェニオ)」



「プロトレーニングトップ」
「プロトレーニングパンツ」

アシックスのサッカーアイテム



「W'S ストレッチ
モーションジャケット」
「ストレッチモーションパンツ」

asics



「LADY GELXCEL 2-WIDE」

アシックスのランニングアイテム



Onitsuka Tiger



「TOKIDOKI MEX LO
(トキドキ メックス ロー)」

イタリア人デザイナーがデザイン
を手掛ける「tokidoki (トキドキ)」
とコラボレートしたシューズ

を行っています。2007年10月に「オニツカタイガー」のコンセプトショップをオープンした香港なども順調に成長しています。

前期に売上が増加に転じた国内事業については、 どのような活性化策を実行しているのでしょうか。

2008年4月に国内での販売強化のため、「国内営業本部」を設置したことによって現場に一体感が出てきました。また、アシックスストア東京に代表されるランニング用品専門ショップのオープン、シューズにアパレルを加えたコーナー展開などの活性化策を行った結果、直営店を中心に効果が現れています。一方、地方の専門店などを中心とした代理店の低迷がこの1～2年間で顕著になるなど、流通チャネルの変革点にあると感じており、マーケティング戦略の再構築を迅速に行っていきます。

また、東京マラソンの効果もあり当社のブランドイメージは向上しましたが、まだ一般消費者から遠いところに当社のブランドがあると認識しています。テレビの映像などを通じてダイレクトに訴求し、もっと身近なブランドにしていきたいと考えています。

アシックスグループが今後も順調に成長するために、 解決すべき課題と対応策について教えてください。

第1はブランド価値のさらなる向上です。2008年10月からデザイン関係を統括する新部門「デザインセンター」を本格稼働させました。ブランドは製品のデザインに象徴されますので、シルエットや素材、カラーで統一感を打ち出し、製品の機能的な構造と視覚的な美しさを高いレベルで融合させた商品企画の実現を目指します。

第2はアパレルの強化です。海外でのアパレルの売上を拡大させるため、国内でのシューズにアパレルを加えたコーナー展開の成功事例を応用するとともに、スポーツ工学研究所やデザインセンターを活用して高機能でデザイン性に優れたスポーツスタイルウェアを中心に拡販に取り組む考えです。



「Kinchaku S
(キンチャク エス)」

Onitsuka Tiger



「COTTON JACKET
(コットンジャケット)」

豊かな色と風合いで世界的に評価の
高い「播州織」を使用したアイテム

第3は研修制度の整備・拡充です。世界戦略の第一歩として、2年前から海外拠点のローカルスタッフの研修を日本本社で行っていますが、今後は日本の社員を海外拠点に派遣していきます。売上高・利益ともに海外比率が高まるなか、世界で通用する高い専門知識とコミュニケーション能力を持った人材の育成を進めていきます。

最後に株主の皆様メッセージをお願いします。

世界的な景気の減速懸念が強まっておりますが、2011年3月期に連結売上高3,000億円（海外2,000億円、国内1,000億円）を達成目標とするACPの基本戦略は変わりません。健康の維持・増進のためにスポーツをする方が増えており、特に当社が強みを持つランニングなどは大きな出費を伴わないので、当社は景気減速の影響を受けにくい事業ドメインに属していると考えています。従って、ACPの達成に向けて、「アメリカ」「ヨーロッパ」「日本」「アジア・パシフィック」の4極すべての地域において、引き続き攻めの戦略を展開し、当社の原点であるものづくりの強化、ブランド戦略の推進などさまざまな施策に取り組んでいきます。一方、世界的な経済の変調や消費トレンドの転換、わが国における流通の変革など、いま「変化」のスピードとその波長が非常に大きくなっています。この変化の時代に対応するため、商品・販売戦略や組織体制の見直しも行っていきます。加えて、内部統制やIRの強化を通じて企業価値のさらなる向上を図ってまいります。

株主の皆様には、これまでと同様のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2008年12月

代表取締役社長

尾山基



「TIGER EARTH Boston S
(タイガーアース ボストン エス)」

Onitsuka Tiger



「TIGER EARTH Messenger
(タイガーアース メッセンジャー)」

「オニツカタイガー」が outlet している
中国・日本・フランスの国旗を
モチーフに、緯度経度をコア
デザインとしたバッグ

アシックスを取り巻く環境

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、個人消費の伸び悩み、設備投資・企業収益の減少、エネルギー・原材料価格高の影響などにより、景気は厳しい状況となりました。世界経済は、国際的な金融危機の影響により、景気の減速感が強まりました。

スポーツ用品業界につきましては、北京オリンピックの開催や健康志向によるスポーツへの関心の高まりが見られましたが、消費者の購買意欲を高めるまでには至らず、厳しい経営環境が続きました。

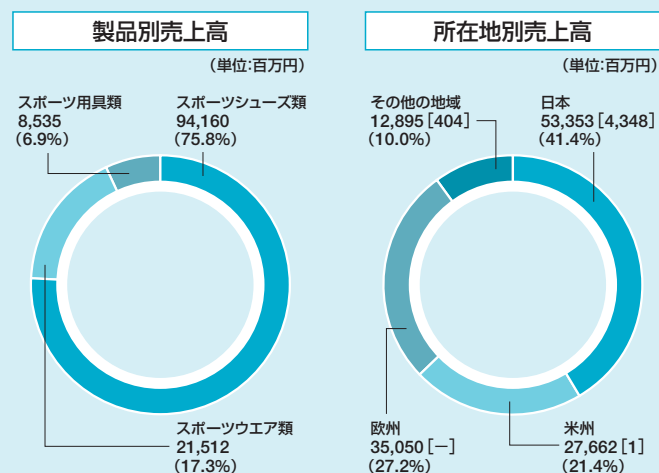
第2四半期連結累計期間における主な取り組み

このような情勢のもと、当社グループは、引き続きグローバルレベルでのランニング事業の強化・拡大を図るとともに、アパレル事業のマーケティング体制の強化およびデザインセンター設置に向けての準備に努めました。

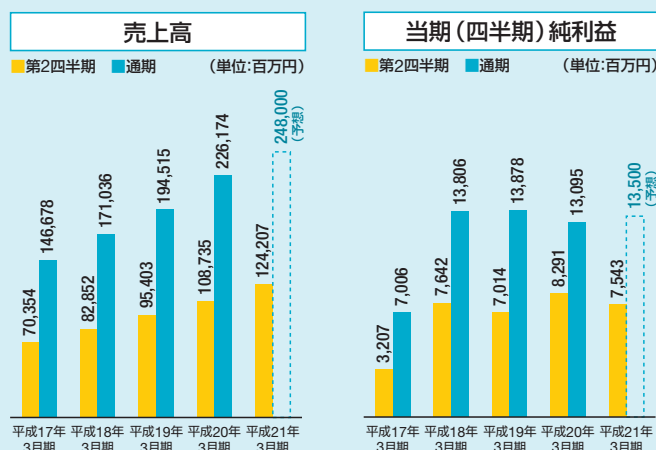
北京オリンピックにおきましては、マラソン、レスリングをはじめとする各種競技のトップアスリート等に当社製品を提供するとともに、世界各国のスポーツイベントのオフィシャルスポンサーとして参加選手への情報・サービスの提供を行うなど、企業イメージおよびアシックスブランドの認知度の向上を図りました。

第2四半期連結累計期間の業績

当第2四半期連結累計期間における売上高は1,242億7百万円と前年同期間比14.2%の増収でした。このうち国内売上高は、平成19年9月21日付で連結子会社としたアシックス商事株式会社の影響に加え、ランニングシューズが好調でしたので467億7千万円と前年同期間比20.5%の増収となりました。海外売上高はヨーロッパにおいてスポーツスタイルシューズが低調でしたが、韓国の販売子会社、アシックススポーツコーポレーションが営業



※ []内は、セグメント間の内部売上高(内訳)です。



活動を開始したことにより、774億3千7百万円と前年同期間比10.7%の増収となりました。損益につきましては、アシックス商事株式会社およびアシックススポーツコーポレーションによる増益要因があったものの、利益率の高いスポーツスタイルシューズがヨーロッパで低調であったことなどにより、営業利益は127億3千4百万円と前年同期間比1.2%の微増にとどまり、経常利益は主にアシックス商事株式会社の持分法による投資利益がなくなったことにより131億4百万円と前年同期間比1.1%の減益に転じました。四半期純利益は特別損失として投資有価証券評価損を計上したことなどにより75億4千3百万円と前年同期間比9.0%の減益となりました。

配当政策

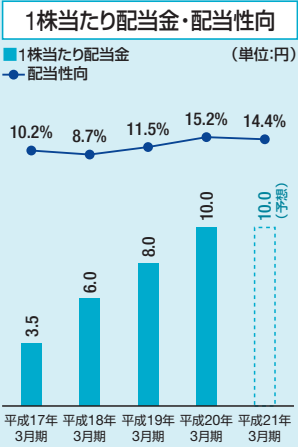
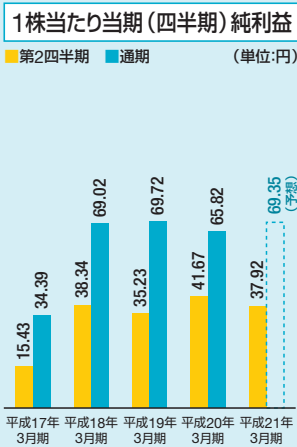
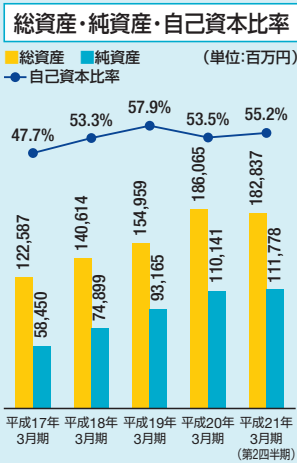
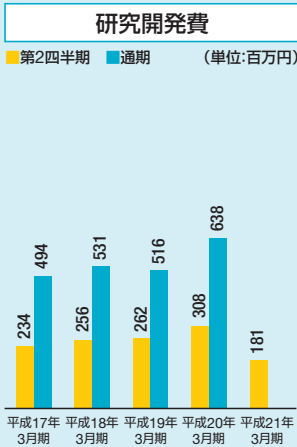
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題のひとつとして認識し、配当につきましては、収益

状況に応じて行うことを基本とし、企業体質の強化と今後の事業展開等も勘案して実施することを基本に、特別な要素を除いて、当社の当期純利益の概ね3分の1程度を配当原資とすることを基本方針として考えております。なお、通期の配当金につきましては、1株当たり10円を予想しております。

通期業績予想

(単位：百万円)

	第54期(実績)	第55期(予想)	前期比増減
売上高	226,174	248,000	+9.7%
営業利益	23,394	22,000	△6.0%
経常利益	21,133	22,000	+4.1%
当期純利益	13,095	13,500	+3.1%
1株当たり当期純利益 (単位:円)	65.82	69.35	+5.4%



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成20年9月30日)
資産の部		
① 流動資産	140,866	135,678
現金及び預金	20,539	24,896
受取手形及び売掛金	63,030	58,276
有価証券	1,358	1,325
商品	2,198	2,281
製品	43,705	40,397
原材料	1,162	1,122
仕掛品	306	327
貯蔵品	73	54
繰延税金資産	4,392	5,037
その他	7,169	4,749
貸倒引当金	△3,069	△2,788
固定資産	45,198	47,158
有形固定資産	20,491	22,718
建物及び構築物	9,612	9,317
機械装置及び運搬具	2,018	1,466
工具、器具及び備品	1,332	1,767
土地	7,297	9,419
リース資産	—	336
建設仮勘定	230	411
無形固定資産	3,776	3,538
投資その他の資産	20,931	20,901
投資有価証券	10,818	9,487
長期貸付金	692	738
繰延税金資産	1,002	1,516
その他	8,979	9,699
貸倒引当金	△561	△540
② 資産合計	186,065	182,837

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

科目	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成20年9月30日)
負債の部		
流動負債	60,159	53,888
支払手形及び買掛金	22,271	17,973
短期借入金	11,632	12,457
未払費用	10,159	5,969
未払法人税等	1,334	3,217
未払消費税等	329	300
返品調整引当金	664	558
賞与引当金	1,418	1,475
繰延税金負債	985	490
その他	11,362	11,445
固定負債	15,764	17,170
長期借入金	4,931	4,164
退職給付引当金	7,140	7,339
繰延税金負債	328	351
その他	3,364	5,315
② 負債合計	75,924	71,058
純資産の部		
株主資本	94,664	99,800
資本金	23,972	23,972
資本剰余金	17,182	17,182
利益剰余金	54,214	59,379
自己株式	△704	△734
評価・換算差額等	4,957	1,085
その他有価証券評価差額金	1,958	1,714
繰延ヘッジ損益	△689	△3,696
為替換算調整勘定	3,688	3,067
少数株主持分	10,519	10,892
② 純資産合計	110,141	111,778
負債純資産合計	186,065	182,837

流動資産

Point ①

現金及び預金は増加しましたが、受取手形及び売掛金、製品が減少したことなどにより、前期末比3.7%減少して1,356億7千8百万円となりました。

資産合計、負債合計、純資産合計

Point ②

総資産は前期末比1.7%減の1,828億3千7百万円、負債の部合計は6.4%減の710億5千8百万円、純資産の部合計は1.5%増の1,117億7千8百万円となりました。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間 連結会計期間 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)
売上高	108,735	124,207
売上原価	60,290	70,878
売上総利益	48,445	53,329
販売費及び一般管理費	35,863	40,594
③ 営業利益	12,581	12,734
営業外収益	1,862	1,338
営業外費用	1,190	968
経常利益	13,252	13,104
特別利益	617	538
特別損失	488	494
税金等調整前四半期(中間)純利益	13,381	13,149
法人税等	4,809	4,868
少数株主利益	281	737
③ 四半期(中間)純利益	8,291	7,543

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

営業利益、四半期純利益

Point ③

アシックス商事株式会社およびアシックススポーツコーポレーションによる増益要因があったものの、利益率の高いスポーツスタイルシューズがヨーロッパで低調であったことなどにより、営業利益は前年同期間比1.2%増にとどまり、127億3千4百万円となりました。四半期純利益は特別損失として投資有価証券評価損を計上したことなどにより、同9.0%減の75億4千3百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前中間 連結会計期間 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,670	12,192
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△839	△5,603
財務活動によるキャッシュ・フロー	260	△1,591
現金及び現金同等物に係る換算差額	620	230
現金及び現金同等物の増加額又は減少額	6,712	5,227
現金及び現金同等物の期首残高	10,196	19,507
現金及び現金同等物の四半期(中間期)末残高	16,908	24,735

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー

Point ④

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は121億9千2百万円となりました。収入の主な内訳は税金等調整前四半期純利益、売上債権の減少、たな卸資産の減少、支出の主な内訳は仕入債務の減少、法人税等の支払です。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は56億3百万円となりました。支出の主な内訳は、事業譲受に伴う支出、有形固定資産の取得による支出です。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は15億9千1百万円となりました。収入の主な内訳は、短期借入金金の純増加、支出の主な内訳は、配当金の支払、長期借入金金の返済による支出です。

Sportività (スポルティヴィタ)はイタリア語で「スポーツマンシップ」という意味になります。スポーツ(Sport)とライフ(Vita)の意味も込めており、当社のスポーツや事業に対する想いをお伝えする特集セクションとして展開していきます。

Topics

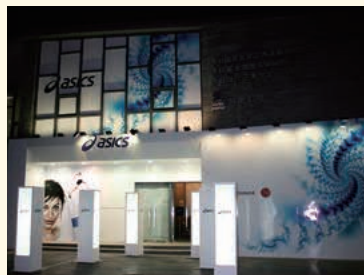
ヨーロッパにおける旗艦店「ASICS STORE LONDON」をオープン

ヨーロッパにおけるアシックスの旗艦店として2008年10月3日に「ASICS STORE LONDON (アシックスストアロンドン)」をロンドン市内にオープンしました。「アシックス」ブランドの総合的なスポーツ用品店として、ランニング関連商品、インドアスポーツ用シューズ、フィットネス用ウエアなどを取り揃えています。また、ランニング中の足の動作分析や新型の3次元足型計測機による足型計測など、ランニングに関するサービスを提供します。



北京オリンピックとアシックス

～「ASICS VIP LOUNGE」とトメスク選手金メダル獲得～



ASICS VIP LOUNGE

アシックスは、2008年9月に行われた北京オリンピック開催期間中に、「ASICS VIP LOUNGE (アシックスビップラウンジ)」を北京市内に開設しました。アシックス商品の特徴や魅力を発信すると同時に、契約選手やチーム関係者のため、シューズやウエアの修理や交換、ドリンクや軽食のサービス提供などフォロー活動の基地とし、来場者から好評をいただきました。

また、女子マラソンにおいて、アシックスのシューズを使用したルーマニアのコンスタンティナ・トメスク選手が金メダルを獲得。この結果、2000年シドニー大会の高橋尚子選手、2004年アテネ大会の野口みずき選手に続き、アシックスシューズ着用選手が3大会連続で金メダルを獲得しました。

「Electric Tiger Land」、第51回日本雑誌広告賞を受賞

光り輝く東京の街並みや夜景をイメージした「Electric Tiger Land (エレクトリックタイガーランド)」をコンセプトに、色とりどりに輝くエレクトリックなシューズの広告が、第51回日本雑誌広告賞の金賞に選ばれました。



会社概要

社名	株式会社アシックス
創業	昭和24年9月1日
資本金	239億7千2百万円
事業内容	各種スポーツ用品および各種レジャー用品 の製造および販売
本社所在地	〒650-8555 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL:(078)303-2231 FAX:(078)303-2241
従業員数	5,156名(連結)

役員

代表取締役会長	和田清美
代表取締役社長	尾山基
代表取締役専務取締役	爲定涼次
常務取締役	清水裕一郎
取締役	織田信雄 千原芳雄 池崎俊郎 河合茂之 松尾和人 佐野俊之
常勤監査役	黒崎鉄雄 西野修一
常勤社外監査役	田中秀明
社外監査役	山上和則 三原秀章

営業所

関東支社
〒130-8585 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL:(03)3624-2240
関西支社
〒661-8577 兵庫県尼崎市潮江1丁目3番28号 TEL:(06)6496-5111

直営店舗 (平成20年11月30日現在)

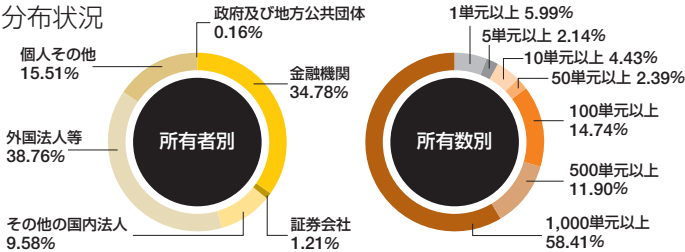
歩人館
49店舗
オニツカタイガー
国内11店舗、海外15店舗
アシックスライフール
4店舗
アシックスファクトリーアウトレット
12店舗
アシックススポーツスタイルショップ
1店舗
アシックスストア
国内2店舗、海外1店舗

株式状況

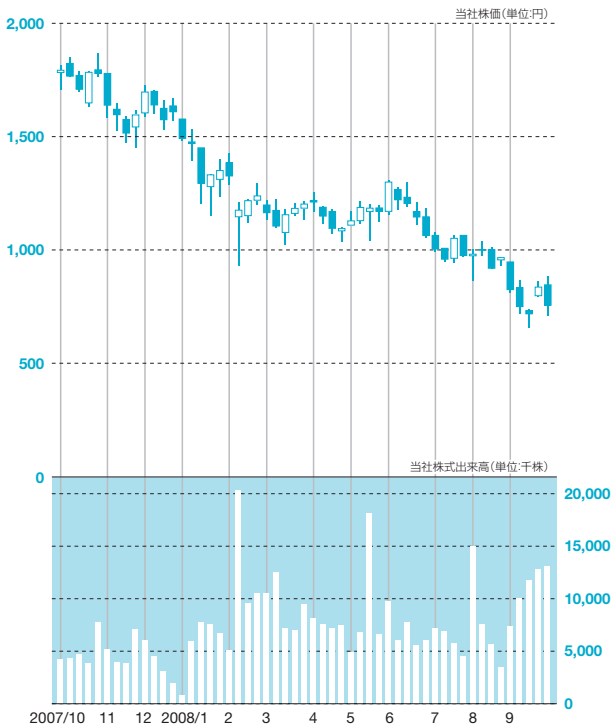
発行可能株式総数 790,000,000 株
発行済株式の総数 199,962,991 株
うち自己株式 1,080,196 株 (10,272,317 株 [平成20年10月31日現在])
株主数 13,431 名
大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	9,883	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,551	4.3
ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー	8,362	4.2
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	7,858	3.9
株式会社三井住友銀行	6,607	3.3
日本生命保険相互会社	6,309	3.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4G)	5,726	2.9
ユービーエス エーजी ロンドン アカウント アイビービー セグリゲイテッド クライアント アカウント	5,295	2.6
株式会社みなと銀行	4,208	2.1
アシックスグループ従業員持株会	3,118	1.6

分布状況



株価・出来高チャート (週足)



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日 3月31日
定時株主総会 6月中
単元株式数 1,000株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法 下記のホームページに掲載いたします。
<http://www.asics.co.jp/ir/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

電話お問い合わせ先 電話0120-288-324 (フリーダイヤル)
郵便物送付先 <2008年12月30日まで>
〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
<2009年1月5日より>
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

IRに関する発表資料、決算発表資料、アニュアルレポート (英文) など株主・投資家向けの情報については当社ホームページ (<http://www.asics.co.jp/ir/>) に掲載しています。